

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	わくわくクラブ千里丘校・放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	2024年12月11日 ～ 2025年1月15日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	52名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2024年12月11日 ～ 2025年1月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 30日		

○分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別・小集団どちらにも対応できる体制のため一人ひとりに合わせた発達支援のアプローチができる	・子ども達が楽しく取り組んでいる間に自然と様々な発達が促されている取り組み ・苦手なことも楽しみながらスモールステップで挑戦し成功体験を積み重ねることができる取り組み	・子どもたちが楽しく取り組めるように一人ひとりに合わせてスモールステップのカリキュラム内容を考案し続けていく ・保護者の方との情報共有を密に行い毎回の活動内容に活かしていく
2	・関係機関(園・学校・相談支援員・病院等)との連携に力を入れている	・関係機関と連携することで事業所外の様子を知り事業所内での発達支援アプローチに活かしている ・児童の将来に繋がる取り組みを意識したカリキュラム内容 ・対応について関係機関と連携しながら進めている	・関係機関との情報共有を定期的実施し共通認識を持った上で家族支援をおこなっていく ・事業所を併用している児童については事業所間の連携を強化していく
3	・発達支援をおこなう上で様々な視点で子どもたちとご家族をサポートすることができる	・スタッフの専門性を活かしてより良い発達支援内容を考えている ・在籍している心理士、保育士、それぞれの視点を共有してアプローチしている	・様々な視点から子どもたちの発達を考えることができる体制を強化するため内部だけでなく外部の方の視点も取り入れる機会を作っていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門職を配置していないため専門的な支援を提供する体制を整えている事業所と比較された時専門的なアプローチが弱くなる	・理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などの専門的アプローチがより良い発達支援をおこなうために必要だと考えており事業所として高めていきたい内容である	・各市や関係機関の専門職(理学療法士、作業療法士言語聴覚士)との連携を継続する ・定期的に専門職の方が開催している研修会に参加し事業所としての専門性を高めていく
2	・教室の構造上完全個室は一部のみである ・その他はパーテーション等を使用して個室環境の設定している	・パーテーション等を使用した個室環境では周囲の音が気になってしまう児童もいるため環境設定やカリキュラムに工夫が必要だと考えている	・パーテーション等を使用した個室環境をプラスに捉えた活動内容を充実させていく
3	・利用児童と地域との交流が弱いため地域との交流を意識した取り組みを考えていく	・近隣市から通所し自分の住んでいる地域とはならない児童もいるため地域交流に力を注いでいなかった	・地域の児童福祉施設や児童が通所している園との交流や地域のイベントに参加地域の方を事業所に招く等地域との交流を検討し強化していく